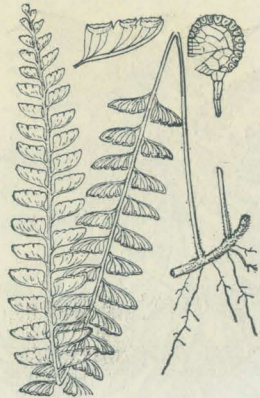


にせほんぐらした

*Lindsaya cultrata Swartz*

紀伊半島、四国、九州の暖地及び八丈島の向陽の湿気ある地に生ずる小形の羊歯草本。細紐状の根茎は泥中を匍い、濃黄褐色の鱗片を密生している。葉は疎に並んで出て直立し、高さ20-40cm、葉柄は針金状で鱗片なく、硬いもろく、光沢があり褐色を帯びる。葉面は1回羽状複葉で黄緑色、厚手の紙質で、漸尖する広線形、羽片は前縁直線的な歪んだ楕円形、基脚は截形短柄、前縁の2-3の浅い裂目を除いて、縁で開口した苞膜を線状に生じ、そのかげに囊堆がある。和名は曾って本宮羊歯と呼んだものを著者が改称したもの、なお第2794図ホングウシダの項参照。



第 3888 図

ふもとかがま

*Microlepia pseudo-strigosa Makino*

南関東から九州に亘り樹林下の陰湿地に稀産の常緑羊歯草本で、フモトシダとの近似を以て知られる。屢々混生するが、フモトシダの単なる深裂葉品とは思えない。即ち葉面は2回羽状複葉で、小羽片は更に羽状浅裂する外、其質が他方に比べて遙かに厚く、また葉柄と葉面中脈の上面は全く毛を生じない。葉の色も暗碧緑色でなく少し明るい緑である等の諸点で区別される。和名はフモトシダのフモトとシダの古名カグマ(多くはリョウメンシダを指す)を結んだもの。最初の発見地、神奈川神武寺では多数のリョウメンシダの群叢中に僅数の本種が発見された。



第 3889 図

あみしだ

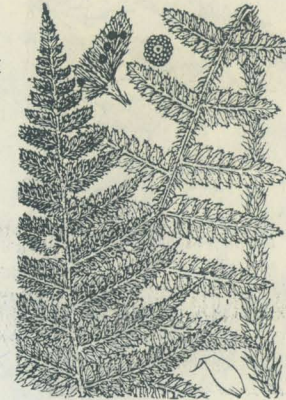
*Dictyocline Griffithii Moore*

関西以西の暖地の陰湿の懸崖にはえる多年生羊歯草本。根茎は短かく匍う。葉は根茎と共に全体に短い毛が密生し、高さ30-40cm、稍々集って出る。ひどく暗い緑色で、表裏の区別が殆んどない。葉柄はもろい。葉面は紙質に近い草質で最下羽片が特に大きく突出した鈍形の長楕円状卵形で、上方へ漸減する大形の欠刻があるが、細かい鋸歯はない。葉脈は網目をなし、遊離した脈はできず、軽く両面へ浮き上っており、裏面ではその上に囊堆が同じく網状にできる。苞膜を欠く。印度から東南アジアに広く分布。和名は網シダで葉脈の走行を示す。



*Polystichum Braunii Fée*

北半球亜寒帯の針葉樹林下にはえる多年生羊歯草本で、日本では信州以北に見られるが、ツヤナシノデ程に多くないし、株もそれより小型である。根茎は立ち、数葉をオンズ状に斜上展開するが、高さ50cm内外、葉柄は葉面より遙かに短かく濃褐色で、それより淡色の軟かい鱗片を疎につける。葉面は長楕円状披針形、2回羽状複葉、下方1/3の羽片は下程短かい。小羽片は多少草質で表面は暗緑色、少しく光沢があり、前縁直線、後縁上部で歪頭、先端は尖る。囊堆はその中脈の両側に接在して並ぶ。



第 3890 図

みどりかなわらび

*Polystichum nipponicum Rosenstock (=Rumohra nipponica Ching)*

伊豆半島以西の暖地の溪畔林下に生ずる多年生の大型常緑羊歯草本で懸崖に葉を垂れていることが多い。根茎は硬い紐状で横走し、葉は2-3接近して出る。全長1mに達す。葉柄は長く、淡緑色、年を経たものは背面褐色を帯びてつやがあり、下部には鱗片が密につく。葉面は卵形、上部に鋭尖し、鮮緑色光沢あり、裏は淡緑色、3回羽状複葉で、薄い革質だが、カナワラビ類中で最も質薄く軟味がある。小羽片は長尾鋭尖頭の前方向へ歪んだ楕円形で更に前縁で羽状深裂し、この裂片の中脈に接在して円腎形の苞膜がある囊堆をつける。



第 3891 図

きんもうわらび

*Hypodematium crenatum Kuhn (=Dryopteris crenata O. Kuntze)*

欧亜各地の暖地及び北アフリカにも分布する落葉性の羊歯草本であるが、日本では関東以西の石灰岩地方の懸崖に屢々着生する。根茎は横に匍い、金褐色の長い鱗片を密生して径3-4cmの塊をなすので甚だ美しくまた特徴的である。葉は2-3枚ずつ出て、柄のある卵状五角形、葉面は淡緑色だが冬には黄褐化してなお開いたまま残留する。最下羽片は特に大きく、鳥趾状3回羽状複葉で、小羽片は更に羽状深裂、羽片は草様膜質で、毛を蔽る。囊堆は円腎形で毛が多い苞膜を持つ。和名は根茎の鱗片を金毛と表現したものの。



うらほし科

うらほし科

うらほし科

うらほし科

うらほし科

うらほし科